

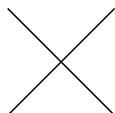


安心して使える 「自社AI」が、 ビジネスを加速する。

セキュリティ万全なプラットフォームで、
データ活用とAIエージェントによる業務効率を最大化。
人とAIの最適な共創環境をデザインします。



GIDR.ai
GUIDED INTELLIGENCE



**Communication
Business
Avenue, Inc.**

ボトルネックはどこに？ 課題を見極める。

DXのキープレイヤー、AI。でもその活用につまずく企業は少なくありません。一説にはAIプロジェクトの約8割がPoCの壁を超えられず、本格導入に踏み切れないとも言われています。加えて慢性的な人材不足、複雑化する業務、そして高度化する顧客期待値。「うちの会社も同じだ…」と感じる課題、ありませんか？

共通の課題

人もデータも十分活かされず、
AI活用が停滞。

- 採用難と退職でノウハウが消失
- 社内データの活用が進まない
- 膨大な非構造化データでAI学習が頓挫



BPO・コンタクトセンター

「人を増やせば回る」時代は終わった
— 対応品質と人材確保の両立が困難に。

- 属人化による対応レベルのばらつき
- 「AI=人員削減」という誤解によるDX停滞
- 人手頼みの従来モデルの限界



製造業

停まる、ムラが出る、継承できない
— 不安定な現場に。

- 予兆データを活かせず、機会損失が増加
- 作業任せの業務で効率化が困難
- ベテランのノウハウが体系化されない・新人の即戦力化が困難



建設業

現場が見えず、ロスが重なる。

- 進捗がリアルタイムで共有できない
- 点検・報告など間接業務が本来業務を圧迫
- 現場データが活かされず手戻りが頻発



その他（医療・サービス・物流など）

ナレッジの分断が現場の足かせに。

- 担当者依存でCX品質が低下
- 部門間の情報サイロ化による非効率な業務連携
- OJTが属人的で人材定着が不安定

複雑化する課題を乗り越えるための最適解が、ここにあります。



課題解決に必要なのは、 非属人的なソリューションだ。

声、画像、テキスト、動画など、多様な情報形式を理解し処理できる次世代型プラットフォーム、**GIDR**(ガイド)。企業が自社データを余す所なく活用し、安心してAIを運用できる機能が詰まっています。

GIDRの「ここ」が、従来のAIソリューションと違う。

1



AIエージェント群「Gidget(ギジェット)」との連携

特定業務に特化したAIエージェント「Gidget」が、ナレッジ検索、音声対話、画像認識、ガイド提示などで連携。複雑な業務も、Gidgetの協調によるリアルタイム支援が可能です。(例:Voice Gidgetが顧客と対話>画像が共有される>Image Gidgetが画像を分析>関連情報をオペレータに連携・表示)

2



マルチモーダル対応による自然な情報処理

テキスト・音声・画像・動画など、形式の異なるデータを横断的に処理。情報の種類に関わらず、人間にとって「自然で的確なサポート」を提供します。多言語対応も可能です。

3



ノーコード設計による柔軟性と拡張性

ノーコードUIで、業務ごとのGidgetを誰でも簡単に追加・カスタマイズ。専門知識がなくても現場主導でシステムをスケールアップさせることができ、スピード感のある運用が可能です。

4



柔軟なCRM連携

既存のCRMや業務基盤ともスムーズに統合し、生成AI・AIエージェントによる業務支援を組み込むことが可能。特にServiceNowに関しては、ネイティブ連携できる唯一の音声AIエージェントプラットフォームとして、IT・カスタマー・フィールドサービスの各プロセスをリアルタイムに支援できます。

GIDRによる データ活用

社内にはさまざまな非構造化データ(FAQ、マニュアル・ドキュメント、チャットログ、通話録音データ、動画など)が散在しているのではないのでしょうか?GIDRはそういった非構造化データを取り込み、AIにとって理解しやすい構造化データとして再構成します。そしてそこから吸い上げたナレッジを、動的な形を含めたさまざまなガイドとして、各業務に応用します。

大きな可能性を秘める**GIDR**。具体的な機能に迫ります。 ▶

活用は、業務に合わせて柔軟に。

GIDRは企業に眠るナレッジ活用を最大化し、業務プロセスを革新するための多彩な機能を備えています。誰が、どんな目的で、どう使えるか。課題解決までの解像度をどのように高められるか、具体的に見ていきましょう。



高度なナレッジ活用・マルチモーダルデータ分析

対象 | 従業員 / データ分析担当 / 経営層

目的 | 情報の即時アクセス・データドリブンの意思決定・ナレッジの最大化

活用法 | FAQ、通話録音、現場写真や動画など多様な情報を横断的に解析。自然言語検索やトレンド分析により、必要な知見にすぐ届くナレッジ基盤を構築。



インテリジェントな業務自動化・アシスト

対象 | 業務担当 / オペレータ / 現場作業員

目的 | 定型業務の効率化・人的ミスの抑制・EX向上

活用法 | 問い合わせ対応や報告書作成などを「Gidget」がスマートに自動処理。作業ナビゲーションや異常検知で現場を支援し、対応力と安全性を同時に強化。



ノーコードでのAIエージェント構築・カスタマイズ

対象 | 業務部門/DX推進担当(非エンジニア)

目的 | 迅速なAI活用・即応体制の構築・運用の内製化

活用法 | GUI操作だけで業務に特化したGidgetを誰でもカスタマイズ可能。業務変更やナレッジ更新にも即対応し、常に最新のAI支援環境を維持。



今や必須となっているAIエージェント。

GIDRでは、AIエージェントを簡単かつ安全に運用できます。

Gidget(ギジェット)

— 自社業務に特化した、頼れるAIエージェント。

Gidgetとは、音声対話、画像認識、ナレッジ検索、感情分析など、特定の業務機能に特化したAIエージェントです。単独でも高度な処理が可能なGidgetですが、真価を発揮するのは、問い合わせや入力内容に応じて、最適なGidgetを適切に組み合わせて活用するときです。Gidgetがチームに加わると、日々の業務はどのように変わるのでしょうか。

コンタクトセンターでの顧客対応

新入オペレータがマニュアルを探して右往左往。顧客を待たせ、自信も持てず、CXやCSATが低下してしまう。



質問をボイスGidgetがリアルタイムでテキスト化、ナレッジGidgetが関連FAQや履歴・事例を検索し回答をサジェスト。対応がスムーズになり、満足度も離脱率も改善。

製造現場での設備点検

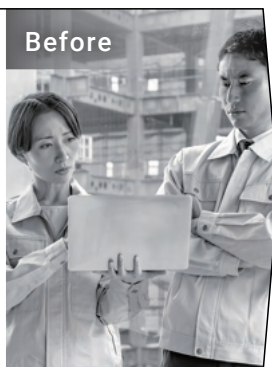
手順が煩雑な点検作業、確認漏れやミス不安がつきまとう。異常を見つけても報告対応に時間がかかる。



ガイダンスGidgetが点検をナビゲート、異常箇所を撮影すると画像分析Gidgetが分析して、対処法を提示。記録・報告も自動化で、点検精度と対応速度が劇的向上。

建設現場での進捗報告と安全確認

進捗報告が事後対応になることで、情報共有が遅く、安全指示も口頭任せに。事故リスクがつきまとう。



音声で進捗を報告すると報告自動作成Gidgetが内容を即時にテキスト化・リアルタイム共有。作業前の手順確認もAIが支援し、現場の安全意識と情報伝達が飛躍的に改善。

Gidgetは、業務に合わせて柔軟にカスタマイズ可能。人とAIが協調することで、本当の効率化を実現します。

GIDRが、ビジネスを加速させ 企業価値を向上させる。

手不足、業務の複雑化、高まる顧客期待を、属人的な方法ではなく、AIのスマートさをフル活用して乗り越える。
データを価値に変え、人とAIが共に成長する環境を作ることで、ビジネスを新たなステージへ。

GIDRがもたらすベネフィット



BPO・ コンタクトセンター

対応力強化

Gidgetの活用により、オペレータ・SVの対応力を底上げ。

品質均等化

AIによるリアルタイムサポートで、対応レベルが均質に。

業務の最適化

効率化で生まれた時間を、より高度な対応へ、そして価値創造へ。



放棄呼
40% 削減



製造・建設業

品質向上 + 技能伝承

AIと人の協働による自動化で歩留まりを改善、ベテランのナレッジを次世代へ。

安全・安定稼働

AIが手順遵守を支援、リスクを低減し、生産性を向上。

意思決定の 迅速化

必要な情報を瞬時に報告書にまとめて共有、後のナレッジ活用にも。



技術者派遣
30% 削減

その他業界・共通ベネフィット

データ活用の 最適化

散在する情報を構造化、必要な情報がすぐにそろい、業務最適化が実現。

業務品質の 標準化

AIエージェントが定型業務や情報検索を代行、担当者のスキルに依存しない。

人材育成と 定着率改善

AIによるOJT支援で、新人の即戦力化やスキルアップを促進。

AIエージェントが支える、 こんな業務シーン。

GIDRが、現場業務にどうフィットするのか。以下の具体的なシーンから、AIと人が協働するイメージを思い描いてください。

BPO・コンタクトセンター

インテリジェントな 問い合わせ対応

一般的な質問にはFAQ等を適宜参照してGidgetが自動回答。複雑な内容はオペレータへスムーズにエスカレーション。



効果的な キャンペーン支援

Gidgetがニーズを自動ヒアリング。内容によってオペレータへ接続。CRM連携でアウトバウンドキャンペーン効果を最大化。



製造・建設業

リアルタイムに状況 把握・迅速に問題解決

異常発生時、Gidgetが画像やセンサーデータを分析して、原因特定と対応策を推測・提示。リアルタイムにすべてを共有。



AIナビによる 品質向上・技能伝承

複雑な操作や作業を、Gidgetが的確に手順をナビゲート。過去データからベテランのノウハウを形式知化し、新人に必要な情報も即座にサジェスト。



その他業界・共通シーン

社内ヘルプデスクの 自動化

従業員からの問い合わせにGidgetが自動対応。自己解決を促し、必要に応じてチケットを自動的に発行。



対話型OJTによる 人材育成

Gidgetとの対話を通じて、日常業務や専門知識を実践的に学習。各々のペースに合わせた教育で早期の戦力化を支援。



GIDRが、自社データを価値に変え、ビジネスの可能性を広げます。

AIエージェントによるビジネスイノベーション、 一緒に向き合います。

AIを単なる効率化ツールで終わらせることなく、
真のビジネス価値の創出につなげるために—

私たちCBAは、AIプラットフォーム「GIDR」を軸に、企業が安心してAIを活用できる環境構築をトータルにサポートいたします。AIおよびAIエージェントの導入戦略提案から、データの構造化、システム連携、そしてAI活用の定着化まで、専門的知見と実績に基づいたコンサルティングおよび技術支援を提供致します。「AI導入は初めてで…」 「データは膨大にあるけれど、活用するまでになっていない…」 「過去にAIを導入したけど、効果の程度は低い…」 このような課題をお持ちでしたら、ぜひCBAへご相談ください。人とAIが協働することで手に入れられるビジネスの最適化を、一緒に実現しましょう。



GIDR.ai社について

GIDR.aiは、AIプラットフォームのリーディングカンパニーです。プラットフォーム「GIDR」とAIエージェント群「Gidget」を核に、FAQやマニュアル、通話ログ、画像・動画などの非構造データを処理し、文脈に沿った対話型ガイドや動的インテリジェンスとして再構成。音声・テキスト・画像・動画といった複数形式の情報を横断しながら、自然で確実な業務支援を実現します。Q&A検索、音声対応、ガイド提示、コンプライアンス検証まで、GIDR.aiは企業の安心できるAI活用を強力に支援します。

会社概要


商号 株式会社コミュニケーションビジネスアヴェニュー
代表者 代表取締役 柴山 浩
所在地 〒239-0847 神奈川県横須賀市光の丘3番4号 YRPセンター1番館 5F
設立 平成18(2006)年5月
事業内容 コールセンターの開発・構築・運営を中心としたシステムインテグレーション、
各種業務自動化ツールやAI関連ソリューションの提供・導入コンサルティング・
アプリ開発・ローカリゼーション

GIDR.ai 製品サイト
<https://gidr-ai.cba-japan.com/>



詳しくは、GIDR.ai 国内正規パートナーである弊社・株式会社
コミュニケーションビジネスアヴェニュー(CBA)までお気軽
にお問い合わせください。

 <https://cba-japan.com>

 **046-821-3362**(平日 9:00-17:00)